

教育プログラム 奈良大学

日時：2017年1月16日(月) 9:00～10:30

場所：奈良大学

演題：「今日のグローバル化し緊迫した世界情勢下での俳句の役割」

講師：ヘルマン・ファン＝ロンパイ（日EU俳句交流大使）

俳句は今、世界中でたしなまれており、多くの国々の、特に若い人々の間で、カッコいいクールなものとして受け入れられています。9ヶ月前にもセネガルの首都ダカールで、アフリカの若者を対象とした俳句コンテストが開催され、閉会式に参加したところです。

私と俳句との出会いは偶然でした。15年以上前のことになりますが、カトリックの神父であり俳人でもある友人が、私に俳句の本を送ってくれました。その時は机の上に置いたままにしていたのですが、それから2年後にその本を読んでみたことがきっかけで、「私もやってみようかな」という気になり、最初の俳句を作りました。その友人に俳句を送ったところ、「悪くないね。続けてみたら?」と言うので、私はどんどん俳句を作るようになりました。

俳句によって私の人生が変わったかという、実はそんなことはありません。ただ、後に私の人生を変える一助にはなったと思います。「どんな本があなたの人生を変えましたか?」とよく聞かれますが、本で人生が変わることはないのです。ある本を読むのは、既にあなたがその本を読むのに合った段階に至っている、ふさわしい人になっているからです。私の場合、歳を重ね、より多くのことにオープンになり、私の内面の精神性が変わってきたことによって俳句を作るようになりました。私が人生の中で俳句や詩歌を詠む段階に至ったから、俳句を詠むようになったということなのです。

俳句とは、自然や移ろう季節、そして日常生活における経験を詠むものです。言葉に込めるメッセージは論ずようなものである必要はなく、実際の出来事や、皆とわかり合えるような基本的な感情、人の心に触れるようなことを表現すればよいと思うのです。単に五・七・五の句を詠むよりも、そういったことを表すのは難しいことです。しかし、それができれば、良い俳人になれるのだと思います。

俳句を含め、詩というものは個人的な感情を表現するものです。西洋の詩が、他人からの批判やコメントは個人の感情を害するものと捉えられ、受け入れがたいのに対し、俳句はそれらを受け入れる

という伝統があります。俳人は、自分は自然や宇宙に依存している存在であること、自分は他者に、そして世界に依存しているのだということ認識しています。そのような認識は、国と国との関係においても必要です。

私たちの世界は相互依存の世界です。私たちは運命を共にしており、同じ世界という船に乗っているということ認識することが何よりも重要です。それができなければ、ナショナリズムの殻に閉じこもってしまい、極端な場合には戦争が起こり得ます。欧州連合は、相互依存を認識したヨーロッパの国々が集まって結成されたものであり、そのおかげでかつてない70年間の歴史が保たれています。相互依存という認識があつてこそ、平和が達成されたということなのです。

私たちが、広い世界の一部であるということ、相互に依存していることを認識できれば、自分と他者を比べることもなく、今感じている幸福度よりも不幸に感じることはありません。俳句はそれを教えてくれます。ですから、俳句は、私たちの文明がもたらす病気に対する薬にもなり得るのです。

不安と不確実性に満ちた時代に世界が最も欲しているものは「穏やかさ」です。穏やかさを獲得するためには、自然界や世の中で起こっていることと自分との間に距離を置く必要があります。私たちはバランスの取れた人間にならなければいけないのです。そのためには、FacebookやTwitter等のソーシャルメディアだけに時間を費やすのではなく、物事をもっと広い視野から正しく見なければなりません。学生の皆さんは、仕事や勉強や遊び、それらにバランス良く取り組むことができる人間になってください。何かに集中し過ぎている人で、正しい判断力を持っている人は少ないものです。正しい判断力は、練習の結果得られるものです。また、少し矛盾しているかもしれませんが、いろいろなことの専門家になってください。そうすれば、自分自身を上手く保てるようになると思います。

